

1.2 河川に生息する生物の確認状況（河川の自然度・健全度）

ここでは河川や河口環境と関わりの深い種や、私たちにとって馴染み深いサケなどの確認状況を整理しました。なお、前回、前々回調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしか見られない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

【各河川の主要な魚種】

（魚介類調査）

● ウグイ属やオイカワ属の魚類を多くの河川で主要構成種として確認

対象河川の魚種の種構成を把握するために、捕獲個体数の多い魚種を整理しました。

今回とりまとめを行った 65 河川をみると、関東地方以北では、ウグイ、エゾウグイなどのウグイ属魚種の割合が、関東地方以南ではオイカワ、カワムツなどのオイカワ属魚種の割合が高い河川が多くみられました。また、オイカワは自然の分布域ではない東北地方の 3 河川で、フクドジョウも自然の分布域ではない東北地方の阿武隈川でそれぞれ主要構成種(捕獲個体数の多い上位 5 種)に含まれました。
(資料掲載: 1-15ページ)

採集方法により捕獲されている魚種や成長段階が異なること、群をなしている稚魚等が大量に捕獲されることがあり、必ずしも各河川の種構成を表現しているとはいえません。しかしながら、多く捕獲された魚種は、日本の河川環境の現況を表現しているものと推測されます。

外来種の確認状況をみると、タイリクバラタナゴが関東地方の利根川(常陸利根川)、北陸地方の梯川、中部地方の木曾川(揖斐川)で主要構成種に含まれました。その他の外来種が優占する河川をみると、関東地方の利根川(常陸利根川)でタイリクバラタナゴとブルーギルが主要構成種に含まれました。また、近畿地方の淀川(草津川)でオオクチバス(ブラックバス)とブルーギルが主要構成種に含まれました。このような外来種が優占する河川では、本来の魚種の種構成が変化してしまう可能性があることから、今後もモニタリングを継続して行う必要があると考えられます。

捕獲個体数の多い魚類一覧

地方	水系名(河川名)	1位	頻度	2位	頻度	3位	頻度	4位	頻度	5位	頻度	
北海道	湧別川	ウグイ属の一種	41.6%	フクドジョウ	18.2%	ジュズカケハゼ	6.3%	ウグイ属の数種	6.2%	ウキゴリ	5.6%	
	後志利別川	フクドジョウ	22.7%	ウグイ	17.8%	ウキゴリ	13.1%	ウグイ属の一種	10.5%	シマウキゴリ	9.4%	
	沙流川	ウグイ属の一種	31.0%	エゾウグイ	17.8%	フクドジョウ	16.4%	ウグイ	14.6%	モツゴ	5.0%	
	釧路川	エゾウグイ	15.2%	ウグイ	15.0%	ワカサギ	11.7%	サケ	8.5%	カワヤツメ属の一種	7.4%	
東北	高瀬川	ワカサギ	45.7%	シラウオ	25.4%	カタクチイワシ	10.0%	ビリンゴ	4.5%	アマチチブ	3.6%	
	馬淵川	△	アブラハヤ	42.9%	ウグイ	40.2%	ヤマメ	8.6%	タナゴ	2.0%	ニッコウイワナ	1.6%
	阿武隈川	オイカワ	30.6%	ニゴイ	15.3%	ウグイ	13.1%	フクドジョウ	4.4%	タモロコ	4.1%	
	川内川	※	ビリンゴ	80.7%	ヤマメ	5.1%	エゾウグイ	2.6%	カヅカ中卵型・シマウキゴリ	1.4%	チチブ	1.3%
	関伊川	※	ウグイ	35.8%	ヤマメ	22.3%	アブラハヤ	17.7%	マハゼ	7.8%	サケ	2.9%
	真野川	※	ウグイ	37.8%	アブラハヤ	16.3%	オオヨシノボリ	9.7%	ボラ	5.2%	ビリンゴ	4.5%
	新田川	※	ウグイ	35.2%	ビリンゴ	10.0%	アブラハヤ	8.8%	コノシロ	6.7%	ギバチ	6.5%
	請戸川	※	フクドジョウ	30.9%	ウグイ	25.7%	カワムツ	11.6%	タナゴ	5.4%	ウキゴリ	3.6%
	木戸川	※	ウグイ	59.0%	ギンブナ	5.1%	ボラ	5.0%	ドジョウ	4.8%	アマチチブ	4.3%
	夏井川	※	アブラハヤ	22.5%	ウグイ	14.8%	オイカワ	12.5%	ヤマメ	7.4%	マルタ	6.7%
	鮫川	※	ボラ	18.7%	ウグイ	10.4%	オイカワ	10.2%	ドジョウ	7.8%	ビリンゴ	7.7%
	関東	利根川(常陸利根川)	タイリクバラタナゴ	27.8%	ブルーギル	22.2%	ボラ	12.8%	アマチチブ	8.7%	モツゴ	4.3%
鶴見川		カタクチイワシ	14.2%	オイカワ	9.7%	ボラ	9.5%	モツゴ	8.6%	マハゼ	8.5%	
富士川		オイカワ	35.5%	カワヨシノボリ	21.2%	アブラハヤ	18.6%	ウグイ	7.1%	ボラ	2.0%	
北陸	関川	オイカワ	18.1%	ウグイ	17.6%	トウヨシノボリ	8.3%	メナダ	6.5%	カマツカ	6.1%	
	小矢部川	アブラハヤ	22.4%	ウグイ	16.0%	カワヨシノボリ	11.9%	オイカワ	9.6%	ウキゴリ	7.8%	
	矢野川	ウグイ	21.0%	タイリクバラタナゴ	20.5%	オイカワ	13.2%	アブラハヤ	8.0%	カワムツ	7.4%	
	犀川	※	アブラハヤ	25.3%	ウグイ	19.3%	アユ	17.3%	ボラ	6.1%	ヤマメ	5.1%
	大井川	オイカワ	48.8%	アマチチブ	11.7%	カワムツ	8.7%	シマヨシノボリ	5.8%	シマドジョウ	4.6%	
中部	菊川	△	オイカワ	40.8%	カワムツ	17.4%	カワヨシノボリ	12.3%	オオヨシノボリ	10.7%	タカハヤ	7.6%
	木曾川(木曾川)	ウグイ	18.0%	オイカワ	13.9%	アブラハヤ	13.3%	カワヨシノボリ	7.4%	カワムツ	6.3%	
	木曾川(長良川)	オイカワ	14.6%	スゴモロコ属の一種	9.6%	アブラハヤ	8.6%	カワヨシノボリ	6.2%	ニゴイ属の一種	6.0%	
	木曾川(揖斐川)	オイカワ	17.7%	アブラハヤ	10.0%	ニゴイ属の一種	6.4%	カワヨシノボリ	5.9%	タイリクバラタナゴ	5.8%	
	音羽川	※	オイカワ	41.4%	カワヨシノボリ	20.4%	カワムツ	19.7%	スズキ	6.5%	ドンコ	3.5%
	太白川	※	オイカワ	52.8%	モツゴ	12.7%	カマツカ	8.8%	マハゼ	7.5%	トウヨシノボリ	5.1%
	梅田川	※	オイカワ	54.4%	カダヤシ	9.7%	スズキ	6.9%	ドジョウ	5.3%	タモロコ	4.7%
	近畿	淀川(草津川)	オイカワ	52.5%	ブルーギル	10.5%	カマツカ	6.1%	オオクチバス(ブラックバス)	6.1%	アユ	5.6%
		淀川(猪名川)	△	オイカワ	32.5%	カワムツ	27.8%	カワヨシノボリ	18.1%	ドジョウ	4.8%	ギンブナ
淀川(木津川)		オイカワ	28.4%	カワムツ	20.6%	カワムツ	15.0%	シマドジョウ	7.8%	タモロコ	7.7%	
淀川(淀川)		カワムツ	22.0%	オイカワ	19.1%	オイカワ属の一種	13.6%	カワヨシノボリ	12.2%	カマツカ	3.2%	
淀川(寝屋川)		△	カダヤシ	65.1%	オイカワ	10.7%	モツゴ	10.1%	ギンブナ	6.5%	コイ	3.6%
田山川		オイカワ	13.0%	カマツカ	6.8%	アユ	6.7%	サッパ	5.6%	アシシロハゼ	4.8%	
九頭竜川		△	ウグイ	19.6%	アブラハヤ	16.8%	カワムツ	15.7%	オイカワ	10.7%	カマツカ	6.3%
芦田川		※	ウナギ	70.0%	オオクチバス(ブラックバス)	10.0%	-	-	-	-	-	
石津川		※	ギンブナ	19.5%	カワムツ・ドジョウ	16.9%	タモロコ	13.0%	コイ	9.1%	ドンコ	7.8%
有田川		※	オイカワ	36.7%	カワムツ	17.3%	カワヨシノボリ	9.4%	アユ	8.6%	ウグイ	5.2%
中国		天神川	カワムツ	32.8%	カマツカ	9.0%	アユ	8.5%	ドンコ	7.6%	オイカワ	5.9%
	目野川	カワムツ	24.2%	カワヨシノボリ	9.9%	アユ	8.5%	オイカワ	7.9%	アマチチブ	6.2%	
	佐波川	カワムツ	28.1%	カワヨシノボリ	15.4%	オヤニラミ	6.0%	アユ	5.6%	アマチチブ	5.4%	
	佐陀川	※	カワムツ	24.8%	シマヨシノボリ	16.8%	オイカワ	10.0%	カマツカ	8.0%	ドンコ	7.8%
	笹ヶ瀬川	※	オイカワ	12.0%	カワムツ	8.2%	カマツカ	7.6%	カマツカ	7.2%	ヤリタナゴ	7.1%
	木屋川	※	カワムツ	20.7%	アブラボテ	13.7%	オイカワ	13.1%	アマチチブ	7.1%	ムギツク	6.8%
	土器川	カワムツ	27.0%	カワヨシノボリ	21.2%	オイカワ	11.0%	ギンブナ	7.8%	チチブ	3.8%	
四国	重信川	オイカワ	37.3%	カワムツ	12.1%	ボラ	8.8%	アマチチブ	5.5%	オイカワ属の一種	4.6%	
	加茂川	※	オイカワ	20.0%	アユ	12.7%	アマチチブ	12.6%	ビリンゴ	10.2%	カワムツ	8.3%
	那珂川	※	オイカワ	25.4%	オイカワ属の一種	15.0%	カマツカ	10.2%	フナ属の一種	6.1%	イトモロコ	4.9%
九州	六角川	オイカワ	23.9%	カワムツ	9.7%	ウグイ	7.3%	ボラ	6.2%	アユ	5.7%	
	球磨川	オイカワ	24.3%	ウグイ	12.9%	アユ	9.1%	カマツカ	5.9%	マハゼ	5.7%	
	大野川	オイカワ	23.9%	カマツカ	6.5%	マハゼ	5.0%	ギンブナ	4.6%	ドンコ	4.4%	
	大淀川	カワムツ	29.0%	オイカワ	14.4%	カマツカ	13.8%	ドンコ	6.9%	アリアケギバチ	6.8%	
	川内川	カワムツ	28.4%	オイカワ	23.9%	マハゼ	9.3%	カマツカ	7.9%	セスジボラ	3.9%	
	耳川	※	ボラ	19.0%	オイカワ	18.6%	タカハヤ	17.2%	カワムツ	10.8%	チチブ	7.4%
	都呂々川	※	カワムツ	54.5%	シマヨシノボリ	40.3%	クロヨシノボリ	3.4%	ヨシノボリ属の一種	1.1%	ボウズハゼ	0.6%
	下津深江川	※	カワムツ	93.6%	ギンブナ	4.1%	クロヨシノボリ	1.8%	タカハヤ	0.6%	-	-
	高浜川	※	カワムツ	41.3%	スミウキゴリ	18.6%	ゴクラクハゼ・シマヨシノボリ	12.0%	ギンブナ	5.4%	アユ	4.8%
	大江川	※	チチブ	24.0%	マハゼ	15.5%	クモハゼ	14.7%	ヒナハゼ	12.4%	ボラ	8.5%
	今富川	※	カワムツ	38.3%	ヒナハゼ	12.8%	ゴクラクハゼ	11.1%	スミウキゴリ	7.7%	ボラ	5.5%
	一町田川	※	カワムツ	27.0%	シマヨシノボリ	21.2%	ゴクラクハゼ	10.3%	トウヨシノボリ	9.4%	ドンコ	7.7%
	路木川	※	カワムツ	46.8%	シマヨシノボリ	44.6%	ゴクラクハゼ	3.0%	ボウズハゼ・トウヨシノボリ	2.2%	スミウキゴリ	0.9%
	泉浦川	※	カワムツ	38.7%	シマヨシノボリ	35.8%	トウヨシノボリ	13.9%	ゴクラクハゼ	6.9%	スミウキゴリ	2.3%
	亀浦川	※	チチブ	19.0%	ボラ	13.8%	ミミズハゼ	10.8%	ヒナハゼ	9.8%	マハゼ	6.2%

注1) 頻度は、全捕獲個体数に対する各魚種の捕獲個体数の割合を示す。

注2) 水系名(河川名)欄の※は二級河川を示す。

注3) 水系名(河川名)欄の△は指定区間のみの河川を示す。

【サケの全国的な確認状況】

(魚介類調査)

- サケの遡上が確認された最南（西）の河川は、日本海側では中国地方の日野川、太平洋側では東北地方の鮫川

河川でのシンボリック的存在である、サケの遡上が確認された河川を整理しました。

今回とりまとめを行った65河川において、サケの遡上が確認されたのは21河川でした。

(資料掲載: 1-17、1-52ページ)

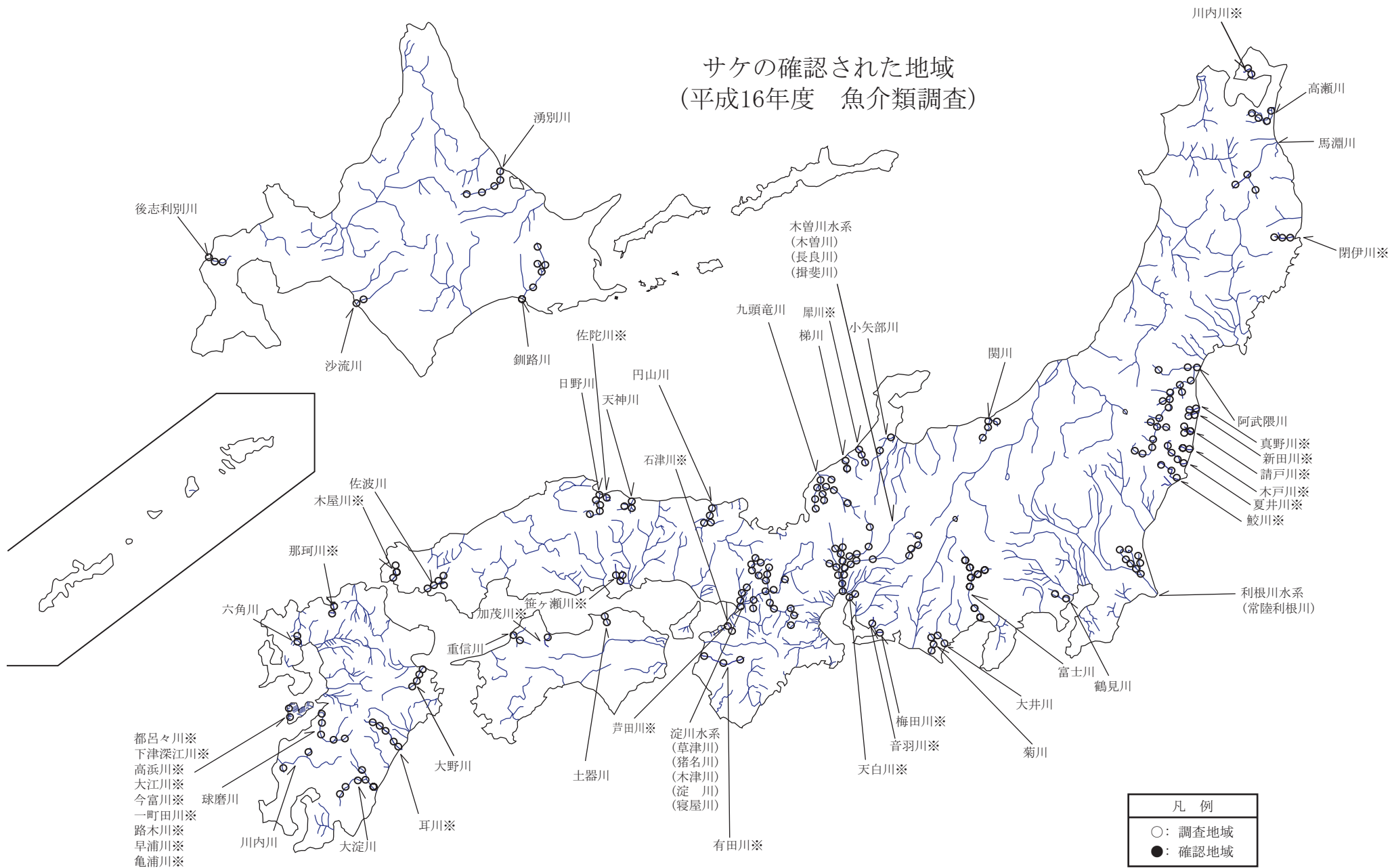
確認河川数の比較 (対象河川: 48 河川)

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
サケ	11 河川	16 河川	20 河川

食料資源として、また東日本の食文化を代表する魚種であるサケは、母川回帰（生まれた河川に帰って来る性質）を行うことから、河川でのシンボリック的存在として取り上げられる種です。

今回の調査では、日本海側では中国地方の日野川、太平洋側では東北地方の鮫川で成魚が確認されました。また、日本海側に流れる河川では、九州北部でもしばしばサケが遡上していることが知られています。

サケの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系(河川)を示す。

- **イチモンジタナゴ等の特定種 9 種を確認**

特定種のうち、環境省 RDB のランクが絶滅危惧 IB より上の種を対象に集計を行い、その確認状況を整理しました。イチモンジタナゴ等 9 種は、今回とりまとめを行った 65 河川のうち、それぞれ 1～6 河川で確認されました。また、イチモンジタナゴが中部地方の木曾川(長良川)と中国地方の佐波川で、カワバタモロコが九州の六角川で、スジシマドジョウ小型種東海型が中部地方の木曾川(揖斐川)で、タナゴモドキが九州地方の一町田川で新規に確認されました。

(資料掲載: 1-51～1-52ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 48 河川)

種類	特定種区分	前々回調査	前回調査	今回調査
イチモンジタナゴ	絶滅危惧 1B 類(EN)	6 河川	5 河川	6 河川
ニッポンバラタナゴ	絶滅危惧 1A 類(CR)	1 河川	1 河川	1 河川
カワバタモロコ	絶滅危惧 1B 類(EN)	1 河川	0 河川	1 河川
インドジョウ	絶滅危惧 1B 類(EN)	2 河川	1 河川	1 河川
スジシマドジョウ 小型種点小型	絶滅危惧 1B 類(EN)	0 河川	2 河川	2 河川
スジシマドジョウ 小型種東海型	絶滅危惧 1B 類(EN)	1 河川	2 河川	1 河川
ホトケドジョウ	絶滅危惧 1B 類(EN)	8 河川	5 河川	4 河川
ネコギギ	絶滅危惧 1B 類(EN)	0 河川	2 河川	1 河川
タナゴモドキ	絶滅危惧 1B 類(EN)	0 河川	0 河川	0 河川※

※: 今回調査において、九州地方の一町田川で確認されているが、前々回と前回調査が実施されていないため、表中では 0 河川となる。

河川環境の変化をみる指標の一つとして、特定種を対象に集計を行い、その確認状況を整理しました。

イチモンジタナゴは濃尾平野と琵琶湖淀川水系、福井県三方湖に分布し、河川のワンド、溜池、水路に生息しています。

ニッポンバラタナゴは大阪府、香川県と九州北部にのみ分布し、自然性の高い止水域ないしは緩流域に生息しています。

カワバタモロコは静岡県以西の本州太平洋側、四国瀬戸内海側および九州北部に分布し、平野部の河川や池沼に生息しています。

インドジョウは中国、四国、九州地方にのみ分布し、河川の上流から中流の礫が積み重なる水通しのよい瀬尻に生息しています。

スジシマドジョウ小型種のうち、点小型は長野県、兵庫県から島根県までの山陰地方、福岡県、熊本県に分布、東海型は静岡県から三重県までの東海地方に分布し、両型とも流れの緩やかな砂泥底の農業用水路を主な生息場所としています。

ホトケドジョウは青森県を除く東北地方から近畿地方までの本州に分布し、湧水を水源とする細流、湿原や水田周りの小溝に生息しています。

ネコギギは伊勢湾と三河湾に流入する河川にのみ生息し、淵や平瀬等の緩流域で礫底に生息しています。

タナゴモドキは奄美大島以南に分布し、水田や湿地の溜まり池や溝、河川本流脇の池やワンド、細流などに生息しています。黒潮の影響を受ける地域(和歌山県、高知県、宮崎県)からの確認例もあります。

今回とりまとめを行った 65 河川のうち、対象種の確認された河川は 1~6 河川でした。また、イチモンジタナゴが中部地方の木曾川(長良川)と中国地方の佐波川で、カワバタモロコが九州の六角川で、スジシマドジョウ小型種東海型が中部地方の木曾川(揖斐川)で、タナゴモドキが九州地方の一町田川で新規に確認されました。特定種は、生息する数が少なく、その生息場所が限られている場合が多いため、これらの確認状況は、採集方法や調査範囲の違い等の影響を受けると考えられます。しかしながら、特定種は、生息地の改変などの影響を受けやすいと考えられることから、今後とも引き続きモニタリングをする必要があると考えられます。

- 全国の 25 河川でタビラクチ、ウキゴリ属 (エドハゼ、チクゼンハゼ、クボハゼ、ピリンゴ)、ヒメハゼ、いずれかの種を確認

河口域の干潟の環境特性を把握するための指標として、河口の干潟域を主な生息場所とするタビラクチ、ウキゴリ属 (エドハゼ、チクゼンハゼ、クボハゼ、ピリンゴ)、ヒメハゼの 6 種を取り上げ、確認状況を整理しました。

対象魚類として取り上げた 6 種のいずれかが確認されたのは、今回とりまとめを行った 65 河川のうちの 25 河川でした。タビラクチは九州地方の球磨川で、エドハゼは近畿地方の円山川で、クボハゼは四国地方と九州地方の 4 河川で確認されました。ピリンゴは東北地方から九州地方までの 19 河川で確認されました。ヒメハゼは東北地方から九州地方までの 13 河川で確認されました。また、前回から今回調査にかけてこれらの種の確認河川数は増加する傾向がみられました。(資料掲載: 1-21~1-25 ページ、1-52 ページ)

確認河川数の比較 (自然の分布が想定される対象河川)

種類	前々回調査	前回調査	今回調査	対象河川数 ※1
タビラクチ	0 河川	0 河川	1 河川	18 河川
エドハゼ	1 河川	2 河川	1 河川	36 河川
チクゼンハゼ	0 河川	0 河川	0 河川	48 河川
クボハゼ	1 河川	1 河川	4 河川	18 河川
ピリンゴ	15 河川	12 河川	17 河川	48 河川
ヒメハゼ	8 河川	8 河川	13 河川	41 河川

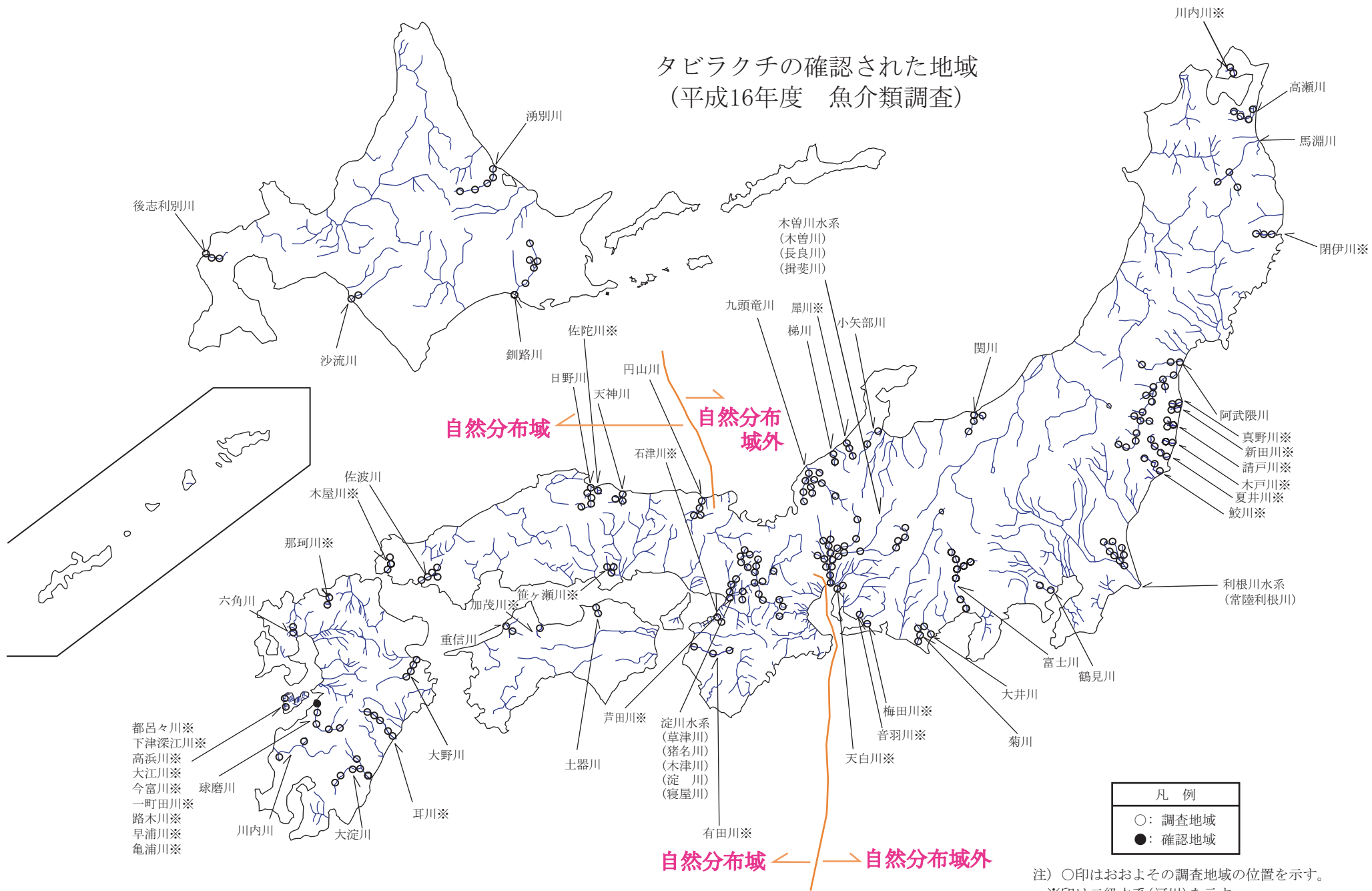
注) ※1: 各種が潜在的に自然分布すると想定される河川のうち、前々回～今回調査を継続して実施している河川数を示す。

タビラクチは和歌山と兵庫以西に分布し、干潟や内湾の軟泥地に生息しています。また、エドハゼ、チクゼンハゼは東日本から九州までの広い範囲に分布し、河口域や汽水域に生息しています。クボハゼは西日本の河口域や汽水域にのみ生息しています。

ピリンゴは北海道、本州、四国、九州に分布し、川の感潮域や汽水湖の泥底から砂泥底に生息しています。また、ヒメハゼは宮城県・山形県以南の本州、四国、九州、琉球列島に分布し、河口域やそれに続く前浜干潟に生息しています。

前回から今回調査にかけてこれらの種の確認河川数は増加する傾向がみられました。しかしながら、その内訳をみると、新規に確認される河川がある一方で、今回調査では確認されなくなった河川もみられました。従って、今後ともこれら河口の自然環境との関わりが深い魚類の生息状況をモニタリングし、その動向をモニタリングしていく必要があると考えられます。

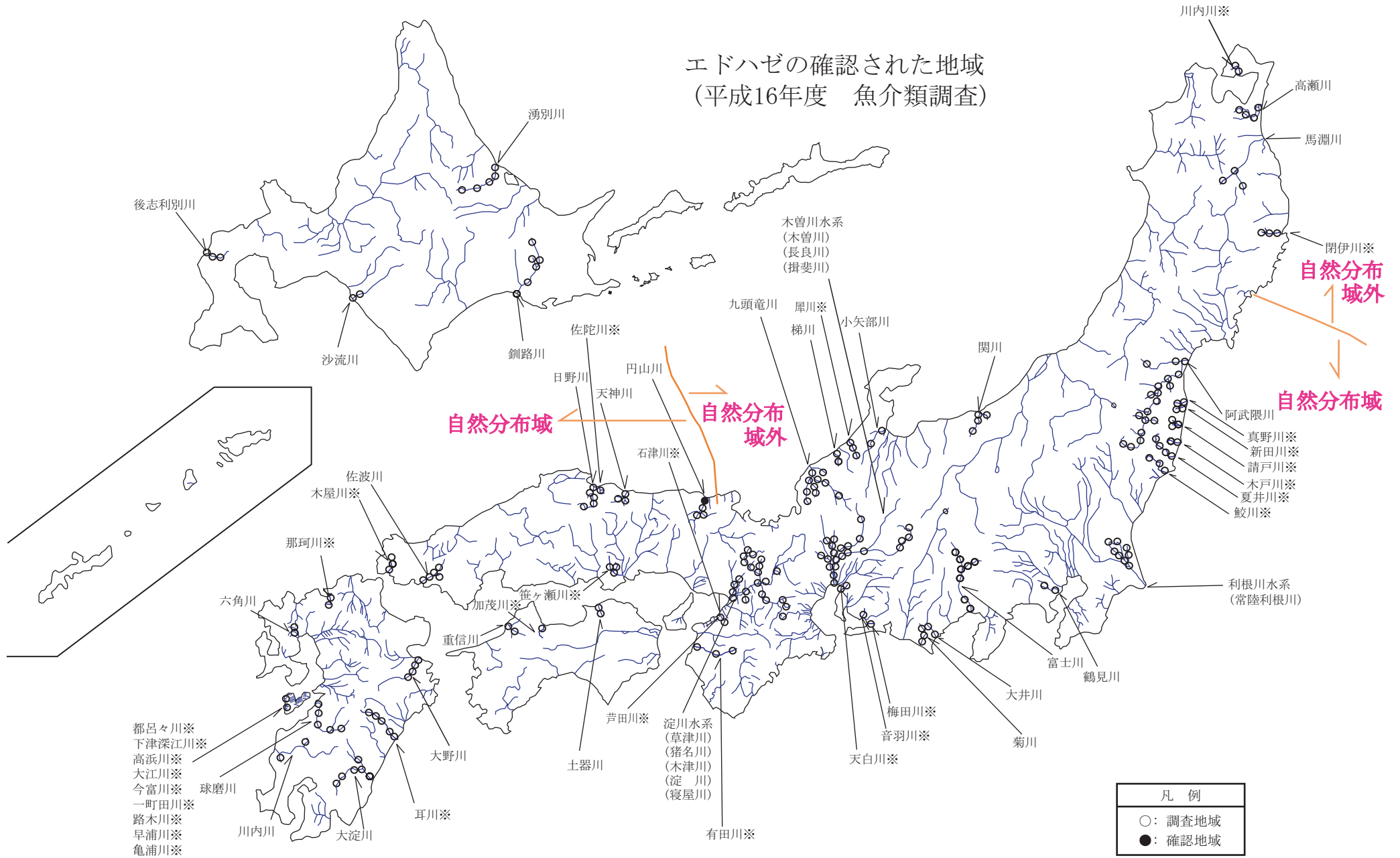
タビラクチの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



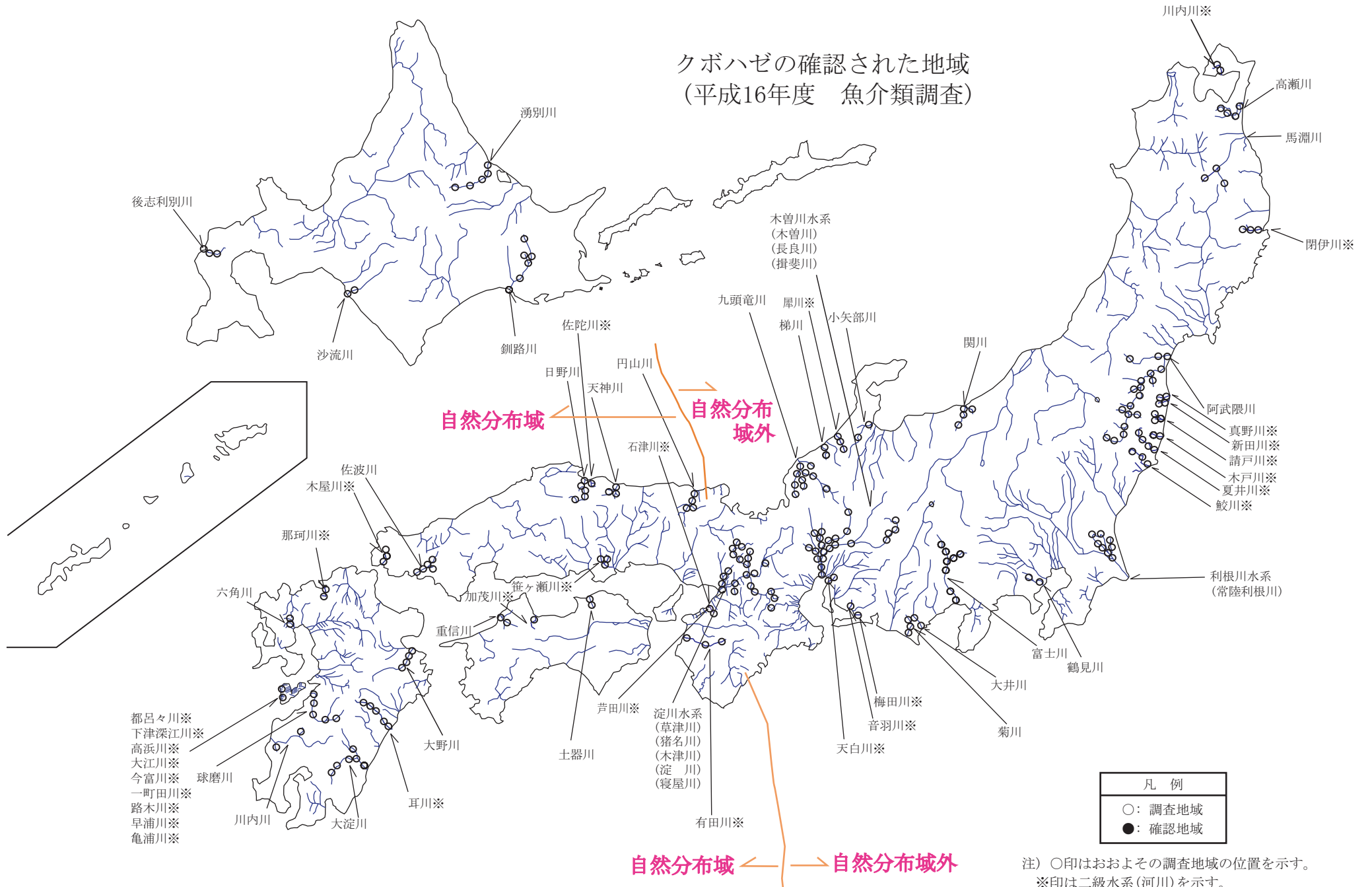
凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系(河川)を示す。

エドハゼの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



クボハゼの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



川内川※

高瀬川

馬淵川

閉伊川※

木曾川水系
(木曾川)
(長良川)
(揖斐川)

九頭竜川

扇川※

梯川

小矢部川

関川

阿武隈川

真野川※

新田川※

請戸川※

木戸川※

夏井川※

鮫川※

利根川水系
(常陸利根川)

富士川

鶴見川

大井川

菊川

梅田川※

音羽川※

天白川※

有田川※

淀川水系
(草津川)
(猪名川)
(木津川)
(淀川)
(寝屋川)

荻田川※

土器川

大野川

耳川※

大淀川

川内川

都呂々川※

下津深江川※

高浜川※

大江川※

今富川※

一町田川※

球磨川

路木川※

早浦川※

亀浦川※

後志利別川

湧別川

沙流川

鉏路川

日野川

天神川

円山川

石津川※

佐波川

木屋川※

那珂川※

六角川

加茂川※

笹ヶ瀬川※

重信川

佐陀川※

日野川

天神川

円山川

石津川※

佐波川

木屋川※

那珂川※

六角川

加茂川※

笹ヶ瀬川※

重信川

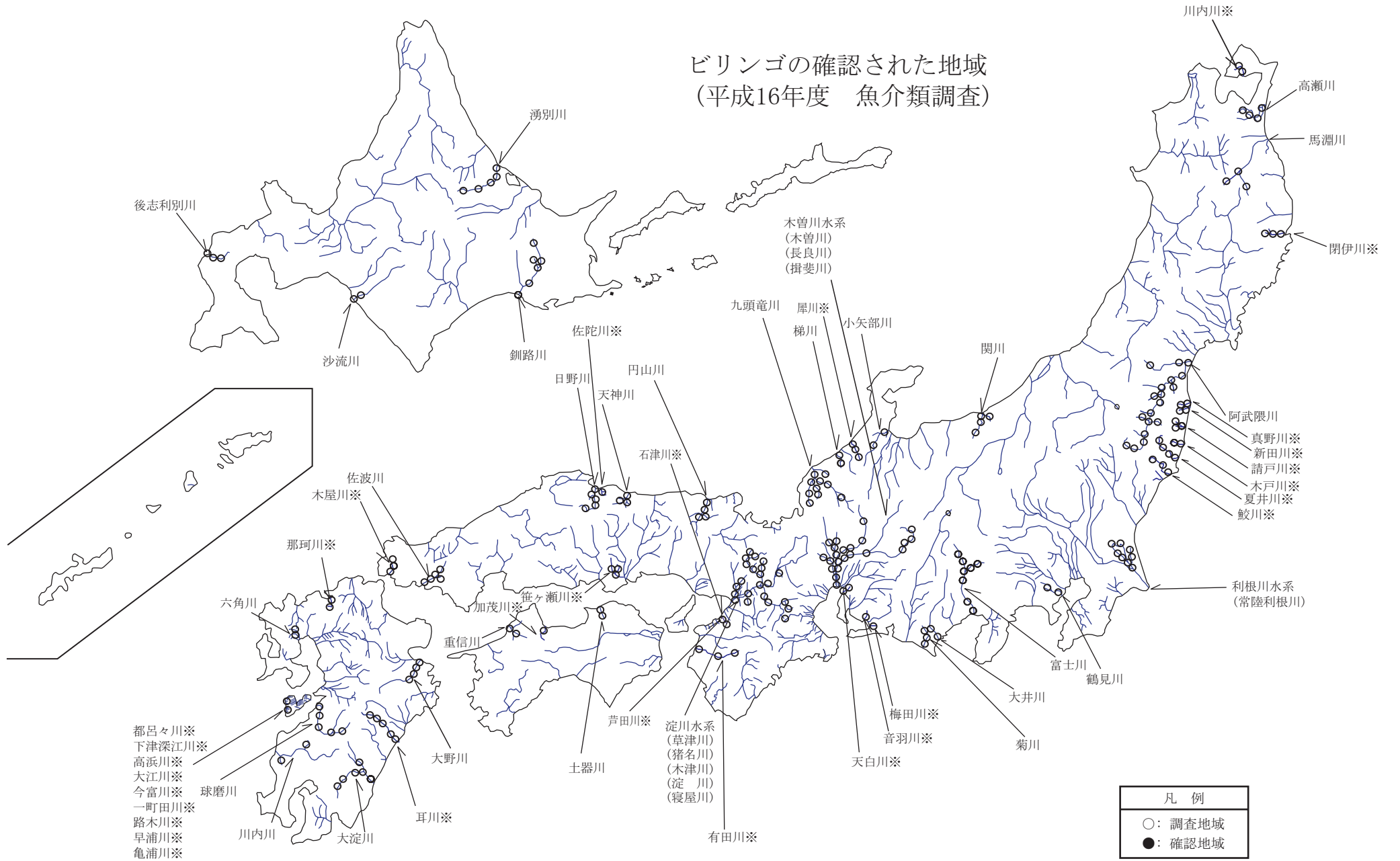
大野川

耳川※

大淀川

川内川

ビリンゴの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



川内川※

高瀬川

馬淵川

閉伊川※

木曾川水系
(木曾川)
(長良川)
(揖斐川)

九頭竜川

扇川※

梯川

小矢部川

関川

阿武隈川

真野川※

新田川※

請戸川※

木戸川※

夏井川※

鮫川※

利根川水系
(常陸利根川)

富士川

鶴見川

大井川

菊川

梅田川※

音羽川※

天白川※

有田川※

湧別川

後志利別川

沙流川

鉏路川

佐陀川※

日野川

天神川

円山川

石津川※

佐波川

木屋川※

那珂川※

六角川

加茂川※

笹ヶ瀬川※

重信川

芦田川※

淀川水系
(草津川)
(猪名川)
(木津川)
(淀川)
(寝屋川)

土器川

大野川

耳川※

大淀川

都呂々川※

下津深江川※

高浜川※

大江川※

今富川※

一町田川※

球磨川

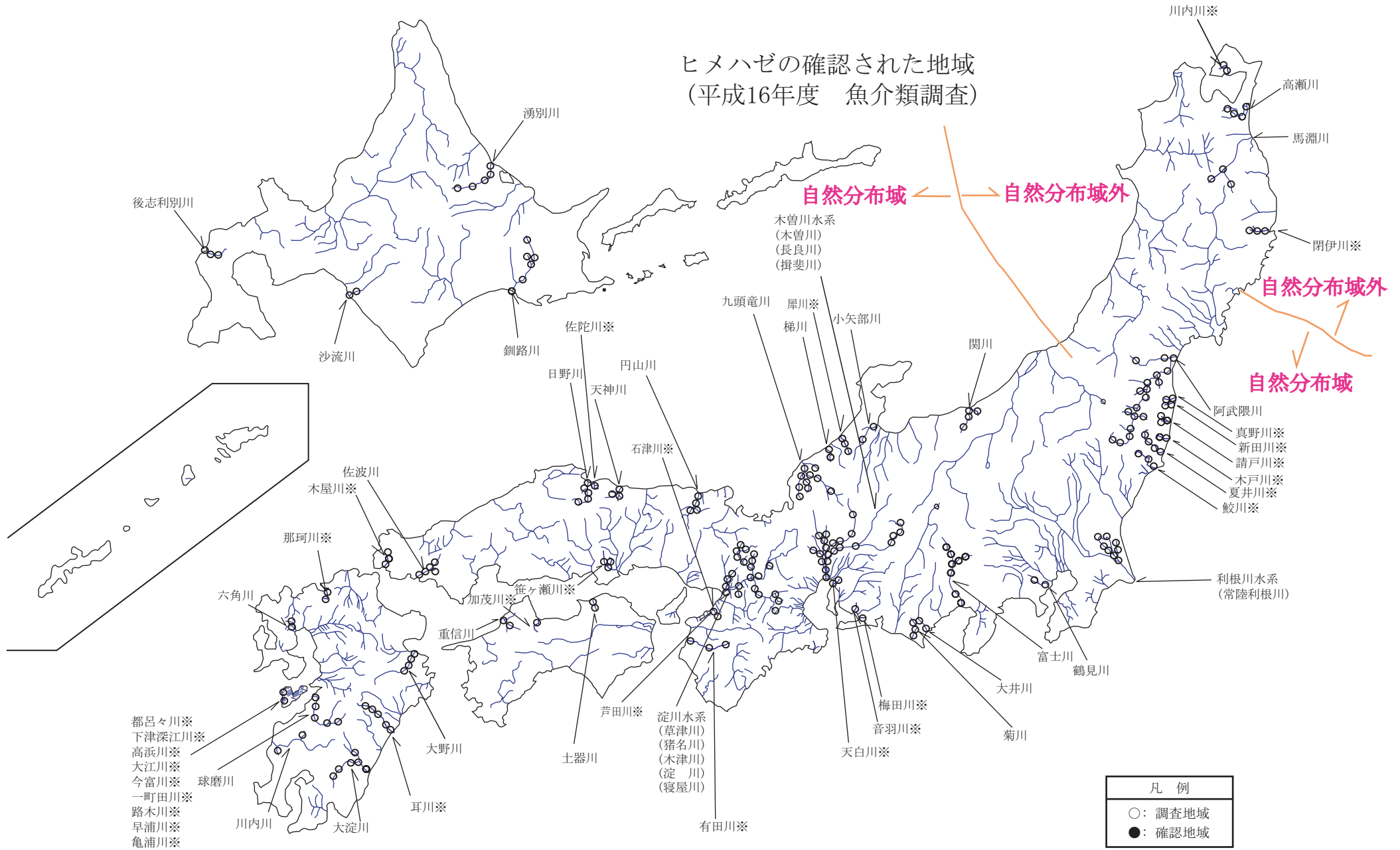
路木川※

早浦川※

亀浦川※

川内川

ヒメハゼの確認された地域 (平成16年度 魚介類調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系(河川)を示す。